

都道府県・ 指定都市番号	60	都道府県・ 指定都市名	大阪市	研究課題番号・校種名	2 (4) 小学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S D を学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	おおさかしりつみなみしょうがっこう 大阪市立南小学校 (179 人)				
所在地 (電話番号)	〒542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋 1-14-29 (06-6252-6825)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://swa.city- osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e551131				
研究のキーワード ・多文化共生 ・地域学習 ・国際理解教育					
研究結果のポイント <input type="radio"/> 教科横断的な学習活動計画の開発 <input type="radio"/> 主体的な学びに適した学習活動の構成 <input type="radio"/> 学校の特色を活かした E S D の学び <input type="radio"/> E S D の評価方法					

1 研究主題等

(1) 研究主題

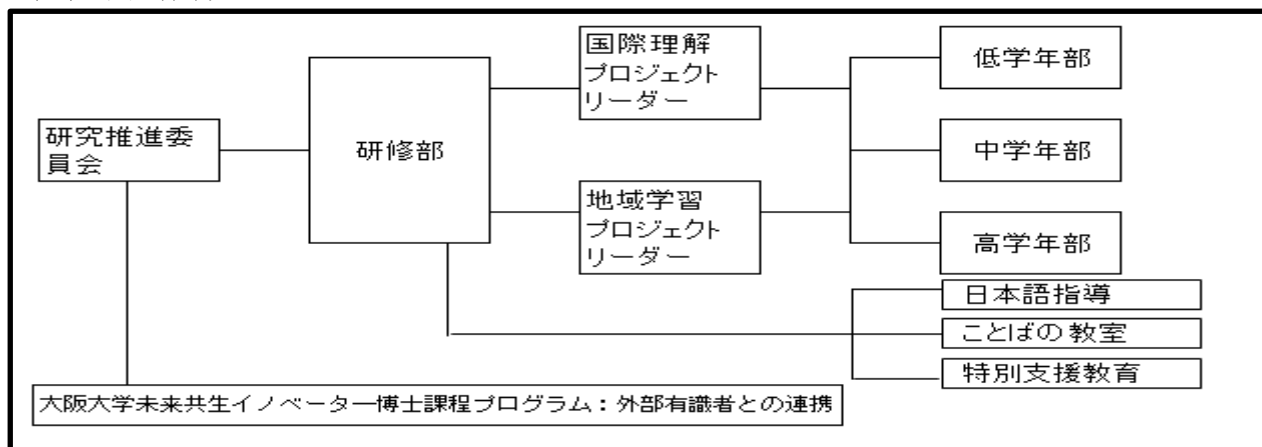
学びに向かう力の育成をめざして～未来を見つめる心を育む～

(2) 研究主題設定の理由

本校は、在籍数の約 4 割が外国籍若しくは外国につながるのある子供たちである。国籍も多様で、多いときには 15 か国にのぼる。他国からの編入児童も多く、日本語指導を必要とする児童に対する学習支援をするための日本語教室が自校内に設置されている。また、日本有数の繁華街に立地していることもあり、外国人観光客の姿を見ない日はなく、街で働く人たちの中にも外国人の姿が多く見られ、外国人居住者の数も多い。子供たちはそうした環境の中、習慣が異なる友だちや日本語を十分に話すことができない友だちと日々学校生活を送っている。こうした本校の現状は、日本人児童にとっては、様々な文化に触れることができ、幅広い視野を育む一助となっていると考える。一方、外国につながるのある子供たちにとっては、自分自身のアイデンティティーに関わって、地域や家庭で意識を深めることができる場が少なく、固有のアイデンティティーの保持が課題として挙げられる。こうした実態を踏まえ、これまで様々な文化に触れる学習活動に積極的に取り組み、互いの文化を知りあう機会を持つとともに自らが生まれ育った文化に対する認識を深める学習活動に努めてきた。更に、明治 5 年開校の歴史を持つ 4 つの小学校が統合されてできた学校でもあり、地域とのつながりも深く、様々な形で地域との交流を深める活動に取り組んでいる。

様々な要素が交じり合う本校の特色を生かした学校づくりを進めるために、今年度ユネスコスクールへの加盟申請をした。ユネスコスクールとしての学びを通して、児童が多様性を尊重し、協働しながら学び合うことへの意欲を高め、自身の未来への積極的な行動力を育みたいと考えている。本校に在籍する様々な背景を持った子供たち一人一人が社会に対する希望を持ち、未来を切りひらく力を身に付けることをめざして、多文化共生の教育の深化・充実・発展とともに、未来に対する当事者意識を育む学習活動の研究・開発に努めたい。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成28年度	1 学期	○E S D研修会 ・ E S Dを専門としている研究者によるE S Dの価値観，E S Dで育みたい力といったE S Dに関わる知識を深めるための研修会を行う。
		○E S Dカレンダーの作成 ・ 1年間の教育活動を見通して，【国際理解プロジェクト】と【地域学習プロジェクト】の学習活動計画を立てる。
		○学習活動案の作成 ・ E S Dカレンダーに基づき，学習活動案を作成する。
	2 学期	○授業研究会，研究討議会の実施 ・ 1学期に計画した授業研究会を実施する。 ・ 外部講師による指導講評を基に，次年度にむけての研究内容の検討を行う。
		○授業研究会，研究討議会の実施 ・ 2学期に引き続き，計画に基づいた授業研究会を実施する。
	3 学期	○E S Dカレンダーの見直し ・ 1年間の学習活動をふり返り，E S Dカレンダーの修正と学習活動計画の見直しをする。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① みなみE S Dプロジェクトの実施

《目指す子供像》

様々なちがいを超えてつながり，地球的視野に立って主体的に行動する子ども

上記の目指す子供像を念頭に置き，研究の成果と課題の指標となる研究の視点と重点課題に即した学習活動計画を組み立てることで，研究主題に迫るようにする。学習活動の立案に当たっては，「国際理解プロジェクト」と「地域学習プロジェクト」に取り組む。

【国際理解プロジェクト】

世界の様々な国々の文化や習慣に対する興味関心を養い、異なる文化背景を持つ人々との協働作業に積極的に取り組もうとする態度を育む。このプロジェクトにおいては、日々、ともに学校生活を送っている友だちとの文化的・習慣的な差異を科学的に捉え、理解する学習活動をすすめるとともに、世界で起きている様々な課題にも目を向ける学習活動にも取り組む。すべての人々が安心して暮らせる社会の実現に向けて、自分たちでできることを模索しようとする態度を育む。

【地域学習プロジェクト】

自分たちの町の特徴を知り、地域の人々が守り育ててきたものや思いを知ることを通して、自分たちの町に対して愛着をもち、自分たちが将来の町の担い手となることを意識できるようにする。これまで、地域の人々とともに積み重ねてきた学習の持続的な発展を目指す。

これら二つのプロジェクトを学校行事との関連性をはかりながら、教科横断的に取り組むことによって、E S Dの視点を教育課程の中に盛り込むようにする。研究の視点については、以下のとおりである。

研究の視点① 主体的・協働的に課題発見・解決することができる力を育む学習活動

研究の視点② 思考を深めるための効果的な言語活動のあり方

② E S Dカレンダーの作成

実際に実施した教科横断的な学習活動を整理する。

③ E S Dで身に付けたい能力・態度を育むための学習指導法の改善

児童も含めた学校全体で共通理解し、自己評価・相互評価ができるようにする。授業研究だけの取組ではなく、通常の学習の中で育み、プロジェクト学習の中で生かすことができるようにする。

(2) 具体的な研究活動

E S Dカレンダーの作成、指導案作成に先だってE S D研修会を2回実施し、E S Dに関する知識を深めた。1回目は、本校研修部長による研究の概要とE S Dに関わっての基本的な知識についての研修を行った。2回目は、大阪府立大学 伊井直比呂教授を講師として招き、E S Dを取り巻く現状とともに、本校が目指す研究の方向性についての知識を深める研修を行った。

① みなみE S Dプロジェクトの実施

【国際理解プロジェクト】

1年「せかいの子どもたち～せかい子どもまつりをしよう！～」(3学期実施)

世界の国々のあいさつや遊び、習慣などを知り、親しむことにより、多様な文化や習慣を尊重し、互いを認め合う素地を養うことをねらいとしている。自分たちの暮らしとの共通点やちがいを見付ける活動を通して、自文化の理解につなげていくことで、外国につながるのがある子供たちを含め、互いの理解を促す学習活動にすることができる。

3年「世界のくらし～世界旅行へ出かけよう～」

国語科「人をつつむ家―世界の家めぐり」を出発点として、学習に取り組んだ。ワールドボックスなどの具体物を利用しながら、世界の国々の暮らしの様子について自分たちで調べて交流したことで、それぞれの国の独自性に気づかせ、世界の多様性を感じることができた。

4年「みんなの命を守るために～ミナミのまちの防災情報のあり方を考える～」(3学期実施)

防災への取組みを自分たちが情報発信することで、防災への意識を高め、災害時には自分や家族、地域の人々の命とくらしを守ろうとする主体的な態度を育てる。だれもが分かる防災情報発信のあり方を考え、自分や家族の命を守り、地域にいる様々な人々の助けになることを考えることを通して、共助の必要性や客観的な視点の重要性にも気付くことができる。

【地域学習プロジェクト】

2年「町のすてきをつたえよう ～南のすてき はっけんたい～」

生活科の町探検の学習活動を基本とし、人や場所に繰り返し関わることで、地域のよさや自分と地域との関わりに気づくことができた。探検したことを振り返り、探検で見つけた「町のすてき」を相手に伝え合う活動を通して、より分かりやすく表現する力やこれからの地域との関わり方や自分自身の行動についても考える力を身に付けることができた。

5年「魅力いっぱいの南小学校へ～伝えよう南小の魅力～」

自分たちの学校への愛着を深め、より魅力ある学校を作る主体者として行動しようとする態度を育むことができた。世界の小学校の学校生活との比較を通して、自分たちが通う南小学校を客観的に捉えることで、自分たちが通う学校の魅力を再発見し、当たり前と感じていたことに目を向けるきっかけとすることができた。

6年「2050年未来のミナミ～未来の小学生に残したい町を考えよう！～」

国語科「町の幸福論～コミュニティデザインを考える～」との教科横断的な学習活動として組み立てた。自分たちで考えたことをプレゼンテーションする活動を通して、主体的に物事に関わる楽しさや充実感を味わうことができた。自分たちの町を「町づくり」という視点で捉えなおすことで、そこに暮らす人々の思いや「住人」としての意識などに気づき、自分たちの住む町に対する当事者意識を育むきっかけとすることができた。

② ESDカレンダーの作成

各学年【国際理解プロジェクト】と【地域学習プロジェクト】の二つの学習活動を計画している。年度末に整理し、来年度の研究に生かすことができるようにする。

③ ESDで身に付けたい能力・態度を育むための学習指導法の改善

プロジェクト学習における評価に関わって、ルーブリック評価を取り入れるようにした。児童の自己評価と記述やパフォーマンスの見取りの両方で学習目標に到達しているかどうかを評価することができるワークシートの活用に努めた。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

<成果>

- 教科横断的な学習活動を組み立てたことにより、教科学習の中にE S Dの価値観や身に付けた力や態度を見いだすことができた。
- 「一次：関心の喚起⇒二次：理解の深化⇒三次：参加する態度・問題解決能力の育成⇒四次：具体的な行動につながる学習活動」のように、学習活動を構成したことで、児童の主体的・協働的な学びの実現につながった。
- 当事者意識を育む学習活動計画を開発することができた。
- 本校の特色を活かした「世界とのつながり」の学習活動を開発することができた。
- E S Dの評価について、一定の方向性を見いだすことができた。

<課題>

- 効果的な教科横断的な学習活動を組み立てるためには、年間の学校行事や各教科等の指導計画を見通して学習活動を計画する必要がある。
- 開発した学習活動計画に継続的に取り組むことができるように、使用した資料や連携した団体やゲストティーチャーなどに係る情報を共有する必要がある。
- それぞれの学習活動に適したワークシートを作成し、自己評価の項目について精度を上げる必要がある。
- 児童が様々な意見の中から新たな考えを構築する力を身に付けるために、どのような場面設定が適切であるかについて考える必要がある。

(2) 今後の取組

- 今年度実施した学習活動の成果と課題を踏まえ、学習活動計画の見直しを図る。
- E S Dカレンダーを教科・領域等の横のつながり、学年の縦のつながりを意識して整理し、E S Dの取組に関わる年間計画を作成する。
- 今年度の学習活動で使用したワークシートと自己評価項目の精度を上げて、来年度の取組に生かすことができるようにする。
- ルーブリック評価に関わる研修を実施する。
- 学習指導要領の改訂に向けて、各教科の資質・能力の育成を意識した評価方法の研究を進めていく。